

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	港湾空港課長 奥村 恭	電話番号	0852-22-5228
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	境港管理事業		
目的	(1) 対象	境港の利用者	
	(2) 意図	利用者ニーズを的確に把握し、港湾施設管理の向上を行い、取り扱い貨物量を伸張させる。	
事業概要	中海・宍道湖・大山圏域の産業振興、観光振興を図るため、共同管理者である鳥取県と連携し、施設整備、ポートセールス等を行う。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	境港の年間取扱貨物量	目標値	450.0	450.0	450.0	450.0	万トン
			取組目標値					
	式・定義	年間取扱貨物量	実績値	373.8				
			達成率	-	-	-	-	%
2	指標名		目標値					
			取組目標値					
	式・定義		実績値					
			達成率	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	490,360	515,174
うち一般財源 (千円)	479,712	512,354

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基じた現状)

境港の全体貨物量については、373.8万トンであり、前年比103.5%と微増となっている。  
 外貨については、とくに木製品の輸出、木材チップの輸入が増加。  
 内貨については、移出、移入それぞれ微増。  
 コンテナ取扱貨物量については、前年比101.4%で過去最高となっている。  
 輸出については、とくに紙・パルプ、産業機械が増加。  
 輸入については、木製品、産業機械が増加した一方、電気製品、鉄鋼などが減少。

6. 成果があったこと(改善されたこと)

20年9月のリーマンショックに端を発した世界同時不況の影響により落ち込んだ取扱貨物量は、近年横ばい状態であるが、27年は微増となっている。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

- ①困っている「状況」  
山陰地域は、国内海上輸送ネットワークのミッシングリンクとなっている。国内物流と国際物流の連携に乏しい。
- ②困っている状況が発生している「原因」  
境港発着の国内定期航路がないこと
- ③原因を解消するための「課題」  
中国地方と北海道、北陸、関東及び九州への物流促進及び効率化を目的とし、国内RORO船定期化に向けた試験輸送を実施しているが、航路の認知度向上、試験運行する船舶確保、輸送用車両確保、国内物流拠点形成、多様なニーズに応じたサービス提供等が不足している。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

これまで、港湾管理者、民間等で個々の取組を行っていたが、物流環境の改善に向け産官学金連携することにより、日本海側の物流・商流を確立し、圏域の経済競争力を強化する。  
 H27年7月に設置した境港流通プラットフォーム協議会を活用し、物流の改善、商流・取引環境の改善に向け、方策の実施、効果の検証を行っていく。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。  
 ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価(任意記載)